

# 日研トータルソーシング株式会社における QC検定の導入・活用事例のご紹介

日研トータルソーシング株式会社  
製造人事部 製造人事ユニット  
前田 智興

## 1 企業概要

【設立】1981年4月1日

【資本金】5,000万円

【事業内容】業務請負事業／人材派遣事業／人材紹介事業

一般労働者派遣許可番号 派 13-060060

有料職業紹介事業許可番号 13-ユ-060049

【代表者】代表取締役社長 清水 浩二

【本社所在地】〒144-0051 東京都大田区西蒲田 7-23-3 日研第一ビル

※全国拠点数 121 箇所（2015年4月1日現在）

【関連会社】(株)アビリティーニッケン／(株)アルテクナ／(株)日本タク

ト／(株)インターテクノ／(株)テクノセンター／(株)日研環境サービス

【所属団体】(一社)日本生産技能労務協会／(一社)日本人材紹介事業協会



あなたと、ともに。  
**NIKKEN  
TOTAL  
SOURCING**



## 2 事業の概況

弊社の主な事業は、製造業の請負（製造アウトソーシング）、人材派遣、人材紹介です。

お取引先数は、製造業のお客様を中心に1,000社以上です。請負業務は、作業所単位、ライン単位、工程単位等、さまざまな規模・形態があります。ライン単位の請負業務の場合、隣のラインは同業他社であるケースもあり、品質・コスト・モラル面などでつねに競争状態に置かれています。そのような状況では、お客様からの依頼事項の達成はもちろんのこと、お客様に対して常に改善活動やその効果など、弊社のアドバンテージをアピールしています。

## 3 QC検定導入の経緯

大きく二つの目的があります。

### 【請負現場のクオリティの向上】

一つ目の目的は、請負現場のクオリティの向上です。各請負現場のクオリティを更に向上させるために、品質改善であるQCサークル活動を展開しています。その活動の中で、「QC手法を活用して職場の管理、改善を継続的に全員参加で行うもの」という概念を身につけると共に、QC検定の資格を取得することでオペレーターの意識の向上を目指しています。

### 【人材育成】

もう一つの目的は、人材育成です。請負現場のクオリティを担うのは、なんといっても「人」です。だからこそ、人材教育は最重要と考えています。座学だけでは本当のリーダーシップは身につきませ

ん。実際の活動の中でそれを育てていくためには、前提として基礎知識がないといけません。そこで、弊社では請負・派遣現場の責任者・リーダーをメインに、やる気のある社員全員へQC検定の取得を勧めています。

弊社には人材育成・キャリア支援のための「日研トータルキャリアサポート」というものがあり、入社初期の新規スタッフ時から管理社員になるまでの階層を7つに分け、それぞれのキャリア段階によって教育・研修や、必須とされる資格が定められています。QC検定の取得は、現場リーダー・作業所責任者になるための必須資格の一つとなっています。

#### 4 QC検定受検への取組み

製造人事ユニットが主管となり社内教育を実施しています。講師は製造人事ユニットのメンバーを中心に、各トレーニングセンター（全国6箇所：仙台、高崎、彦根、東広島、金沢、熊本）の講師及び請負現場の責任者が、参考書（日本規格協会出版）、過去問題集、社内通信教育教材を中心に試験対策を行い、教育体制を整えています。

スクーリングではQC検定の過去の出題傾向から独自に分析し、その内容をスクーリングという形で受検者にフィードバック。これを社内教育としています。一般に、請負・派遣という業務特性上、通常の製造業の社員に比べて、従事している企業への帰属意識が弱くなる傾向があります。そのモチベーションを高めるためにも、QC検定の取得など各人のキャリアアップに繋がる取組みが大切だと考えています。そこで弊社では、受検の費用はもちろん、研修を受ける交通費まで会社負担とし、派遣・請負スタッフに資格取得を推奨しています。

##### 【実力確認テスト】

まずQC検定へのチャレンジを表明したメンバーに対して、「やる気」と現在の実力をはかる意味で実力確認テストを実施します。

##### 【社内教育】

参考書（日本規格協会出版）、過去問題集、社内通信教育教材を各人に配布し、まずは配布した教材で自己学習に取り組みます。その後、実践編・手法編に分けてスクーリング（4開催）を実施します。

#### 5 今後の活動予定

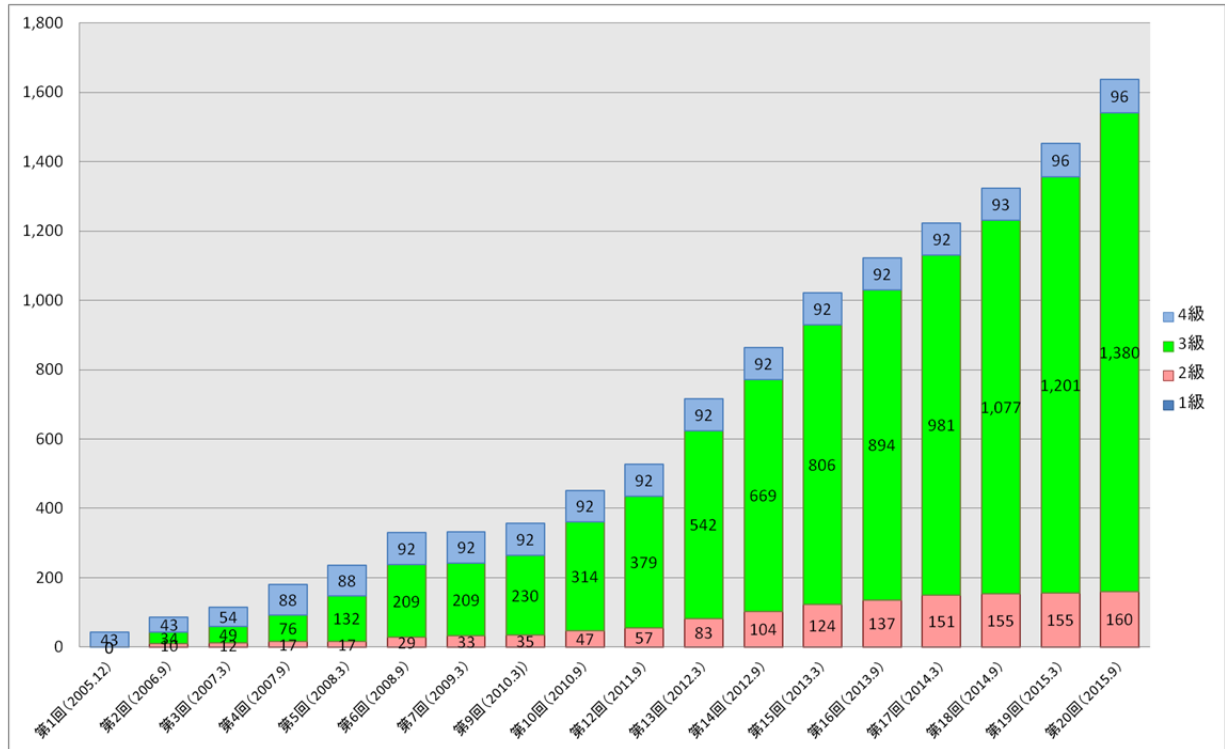
QC検定を導入してから、実際にかかなりの効果が現れています。派遣・請負で働く方の中には、短期間で辞める方が少なくありません。その理由の1つに「帰属意識が薄いため、働くモチベーションがなかなか上がらない」ということが挙げられます。しかしそういった方も、QC検定にチャレンジしたり、QCサークル活動を続けることでモチベーションが大きく変わります。請負先の業務遂行能力が向上するだけでなく、弊社の社員としての定着に繋がっているのです。

資格を取るだけでなく、資格を取った仲間が集まって実際に成果が残る活動をしていくという流れは、弊社のような業種にはとても効果が大きいと、今後もQC検定の取得率アップに向けた取り組みを継続し、お客様はもちろん、弊社に来たスタッフ自身が喜べるような人事体系・教育体系の構築を目指してまいります。

#### 6 QC検定実績

QC検定の受検は2005年に開始し、これまでの11年で延べ約2,797名が受検しました。2015年9月度までのQC検定取得者は1,637名です。

① QC検定取得者数の推移（第1回～第20回）



② QC検定取得者数の推移（第1回～第20回）

検定回		受験者数					合格者数				
		1級	2級	3級	4級	計	1級	2級	3級	4級	計
1回	2005/12/4	0	0	0	44	44	0	0	0	43	43
2回	2006/9/3	0	20	61	0	81	0	10	34	0	44
3回	2007/3/18	1	3	24	12	40	0	2	15	11	28
4回	2007/9/9	0	0	38	36	74	0	5	27	34	66
5回	2008/3/23	0	0	73	0	73	0	0	56	0	56
6回	2008/9/7	0	19	96	5	120	0	12	77	4	93
7回	2009/3/22	0	12	0	0	12	0	4	0	0	4
9回	2010/3/21	0	2	23	0	25	0	2	21	0	23
10回	2010/9/5	0	33	109	0	142	0	12	84	0	96
12回	2011/9/4	0	24	103	0	127	0	10	65	0	75
13回	2012/3/18	4	53	221	0	278	0	26	163	0	189
14回	2012/9/9	6	70	199	0	275	0	21	127	0	148
15回	2013/3/24	6	49	184	0	239	0	20	137	0	157
16回	2013/9/1	4	51	143	0	198	0	13	88	0	101
17回	2014/3/23	3	56	158	0	217	0	14	87	0	101
18回	2014/9/7	1	22	189	1	213	0	4	96	1	101
19回	2015/3/22	1	18	243	4	266	1	0	124	3	128
20回	2015/9/6	3	34	336	0	373	0	5	179	0	184
合計		29	466	2,200	102	2,797	1	160	1,380	96	1,637

7 合格者の声

【3級合格者の声】請負現場事務 若狭 愛美（入社3年目）

私は普段事務仕事をしていますが、「事務職の人もQC検定を受ける」という事実が、作業者の受検

に対しての意欲に繋がるのではないかと思います3級を受検することにしました。無事に受かってからは、「事務の私も取得できるんだよ」と未受検の作業者に受検を促す事ができるようになりましたし、このQC検定の内容は、仕事の組み立て方や、問題の探し方等、事務の仕事にも役立つことが多く驚いています。

QC検定取得後は覚えたことが自然と仕事にも出るようになったため、初めて人に教えてみたいと思い、受検する作業員達の講師を希望しました。実際教えてみると質問に答えられるように再勉強をするため、自分の理解力も深まり、どのように教えたら分かりやすいのかも学べ、普段の生活では経験できない先生役を体験する事ができました。

今後は事務仕事だけでなく、これまで勉強した事を活用していく「講師」という立場で、受検者がいつでも分からない所を質問できる職場環境を作っていきたいと思っています。そうすればもっとQC検定受検への抵抗が減り、受検者を増やす事ができるのではないのでしょうか。3級をもっと深く理解し、何を聞かれても答えられるようになったら、2級を受検しようと思っています。

---

### 【3級合格者の声】請負現場リーダー 平田 ちふみ（入社1年目）

QC検定を受けるきっかけは、日常の業務の中でQC検定の要素が多く活用されており、知っていれば今の自分にできる可能性が広がり、もっといい職場を作れるリーダーとしての責任感も出ると思いました。

また会社では、QC検定を積極的に推進しており毎回多くの社員が検定取得を目標に勉強会などを開催しているのを見て、私も挑戦してみたいと思い受検を決意しました。受かってからは考え方がQC的物の考え方に変わり、今までは分からなかった、グラフの意味や原因などの対策の打ち方などを理解できるようになり、工程管理をする際に大役に立っています。今までは、やり方が分からなかったQC活動も、今回のQC検定取得によって活動ができるようになり、現場で働く作業員が一丸となってより良い物を作ろうと活動し生産性向上にも繋がっています。

今後は、まだQC検定を取得していない社員の合格者を増やして行きたいと常日頃考えていますので、今回3級の講師を志願し、大役ではありますが一生懸命やらせていただこうと思っています。人に教えるためには更に勉強が必要ですので、今後の自分自身は2級合格を目指し、職場での3級合格者も増やしていきたいと思っています。

---

### 【2級合格者の声】請負現場リーダー 紙崎 祐一（入社6年目）

現在の製造現場に配属されてから約6年、今はシフトリーダーをしています。自らのスキルアップと品質管理について興味があり、QC検定2級を取得しました。検定取得時は、実際にQCサークル活動をしながら、サークル運営・実務をしていたので、環境的には恵まれていました。資格取得により、QCサークル活動に役立てた事はもちろん、仕事でのトラブル発生時など目先の事や勘などに捉われず、冷静に物事を分析できるようになりました。

おかげでプライベートでも性格が理論的になりました。資格を取る事は自信にもなりますし、新たな自己開発もできます。さらに、作業現場の品質レベルも上がり良い事ばかりです。今後の目標は1級取得ですが、その前にQCサークル活動の経験を重ねていき、知識だけでなく実務も超1級を目指していきたいです。

---

### 【2級合格者の声】請負現場責任者 島村 勝（入社12年目）

約10年前に入社し一般作業員、工程管理者を経て現在は券売機の修理及び製造組立作業を行っている請負現場の責任者という立場にあります。2級の受検に関しては、理系が不得意だったため受検を躊躇していましたが、ちょうどその頃社内で現場責任者の昇給条件の一つとして、QC検定2級取得が加わったため受検することを決めました。苦手と思っていた手法分野の計算問題は社内のQC検定

講習会へ何度か参加し、少しずつ理解を深めながら過去問を解くことで克服できました。

取得後は現場で発生する不適合品の防止対策、QCサークル活動の推進、更に最近ではQC検定 3級の社内講習会の講師を務めるなど、学んだ知識を生かす事ができています。我々製造業に携わる者には必要不可欠な資格だと実感しています。

---

### 【1級合格者の声】請負現場リーダー 黒田 賢太郎（入社3年目）

私がQC検定の事を知ったのは、4年ほど前でした。最初は、会社の上司から「受けてみないか」と言われ、会社で受検料の負担やテキストの貸出もしてくれるという話だったので、どんなものか一回受けてみよう、というのが始まりで最初は3級と2級を併願で受検しました。勉強を始めるまでは「QC」という言葉自体聞いた事が無かったのですが、3級のテキストを読んでいくうちに「QCの勉強は面白い」と思うようになり、3級から2級に進むにつれ内容も徐々に難しくなりましたが、いまだ2級合格者があまりいないと聞き「自分もその一人になってやる」という気持ちで勉強して合格する事ができました。

仕事で使う知識としては、2級で十分なのかなと思っていましたので、1級受検は最初は考えていませんでしたが、「1級の知識を身に付ける事で、よりQC手法を仕事に生かせるかもしれない」という事と、「まだ誰も1級を取っていない」という事で俄然やる気を起こし「自分が会社で最初の1級取得者になってやる」という思いで受検することにしました。

1級の内容は想像以上に難しく、独学での勉強だったので時間も仕事終わりや休みの日に時間を作り少しずつ勉強をしましたが、1回目では合格できませんでした。合格できなかった悔しさで、まだまだ勉強が必要だと思い、「合格するまで受検する」という気持ちで勉強を続けました。「1級取っても仕事で使わないんじゃない？」と言われたりもしましたが、1級の内容は勉強していくと面白く、これを手法で使ってみたいという思いが強くなり合格するまでは頑張るという気持ちで諦めず勉強を続ける事ができました。

結果として4回目の受検で準一級、5回目でやっと1級を取る事ができました。時間はかかってしまいましたが、「あきらめなければ、結果は出る」という事を身をもって実践し、職場の仲間たちに伝える事ができたと思います。「難しい勉強ができて、すごい」より「あきらめなかった事がすごい」と思ってくれたら幸いです。今後は、得た知識を仕事にも使えるようになっていきたいと思えます。QC検定の勉強会の指導以外にも、QCC活動などでも幅広く活用していきます。

## 8 QC検定に期待すること

一般のオペレーターが管理者を目指す他に、様々な選択肢を増やすためにも、QC検定を役立てていきたいと考えています。非正規社員のキャリア支援にはこれだ！という答えはありません。QC検定におきましても取得するだけで仕事ができるようになるわけではありません。ただし、QC検定を勉強し取得することでその人の「何か」が変わります。弊社はその「何か」がとても大切だと考えています。目標設定⇒資格取得⇒活動⇒評価のP・D・C・Aサイクルを回しながら、日研トータルキャリアサポート（人材育成・キャリア支援）をQC検定と共に確立していきたいと考えています。

## 9 学校（学生・生徒）に期待すること

学生は、工業系ですと電気・機械など、個々の知識を勉強します。QC検定はこの個々の知識を仕事とどう繋げていくのか、また実際の仕事を進めるためのヒントを教えてください。社会に出ると知識・技術を高める機会が必ずやってきます。そのためにも個々の知識の先にあるものを想像しながらQCを学んでいただけたらと思います。

以上